オホーツク・十勝の農業者会議の発表概要を紹介します。（詳細な資料を希望する方は普及センターまで）

『未来にコミットする！タマネギ直播栽培編～第２幕～』
（上湧別コミットクラブ）

○取り組みの内容

日本一のタマネギ産地であるオホーツク地域でも農家戸数の減少が予想され、タマネギ産地として地域の生産量を維持していくために １ 戸あたりの作付け量を増やす必要がある。そのためには省力化が不可欠であり、省力化の切り札としてタマネギ直播栽培の導入試験を行う。

本試験概要

	品種	播種日	移植日	株立て本数	畦間×株間	面積	肥料
直播5畦	北もみじ2000	4/14		46,296 株/10a	24×9cm	38a	N:P:K=15:20:10
直播4畦				37,037 株/10a	30×9cm	38a	
移植		2/28	4/25	28,735 株/10a	30×11.6cm	760a	

○結果

収量は移植、直播５ 畦、直播４畦の順になり、労働時間では慣行の移植に比べ 60%の労働時間削減ができた。直播栽培を導入することで労働時間を削減し、現行を大きく超える作付けが可能になる。直播５ 畦では直播４ 畦に比べ面積当たり約 3.7 倍の利益確保に至ったが、移植には劣ってしまった。しかし、時給換算すると逆転し直播５ 畦が慣行の移植に対し約 1.4 倍の利益を出すことに成功した。

労働時間(10a)

	移植栽培					直播栽培				
	時間	比率	人数	時間×人			時間	比率	人数	時間×人
ハウス準備	0.7	4%	2	1.4						
播種	0.4	2%	2	0.8						
育苗管理	7.7	45%	1	7.7						
後片付け	0.2	1%	1	0.2						
後作緑肥	0.4	2%	1	0.4						
捕植	1.0	6%	1	1.0						
施肥、整地	0.5	3%	1	0.5		施肥、整地	0.5	8%	1	0.5
移植	1.2	7%	2	2.4		播種	1.2	18%	1	1.2
防除	1.3	8%	1	1.3		防除	1.3	20%	1	1.3
除草・中耕	0.5	3%	1	0.5		除草・中耕	0.5	8%	1	0.5
根切・収穫	3.1	18%	3	9.3		根切・収穫	3.1	47%	3	9.3
合計	**17.0**	100%		25.5		合計	**6.6**	100%		12.8

時給換算(10a)

	利益	労働時間	利益/時間
直播5畦	63,983円	6.6時間	9,694円
直播4畦	17,262円	6.6時間	2,615円
移植	120,090円	17.0時間	7,064円

全国青年農業者会議 2020 園芸特産部門 農林水産大臣賞受賞 全国農業青年クラブ連絡協議会HPに発表動画あり

畜産経営部門 最優秀賞

『河川敷草地の植生改善に取り組みました！』
～ ライ麦は種によるMFT 防除 ～ （ヤングファーマーズ講座（池田町））

○取り組みの内容

除草剤の代わりに生育旺盛なライ麦を活用し、粗飼料を確保しつつ、MFT の生育を抑制する取り組みを行った（図１）。河川敷草地に慣行区および試験区（A：0.6ha B：1.0ha）を設置した。R1～R3 年の３年間、計画に沿って植生改善（試験区 A：ライ麦→OG は種、試験区 B：ライ麦→TY は種）に取り組んだ。

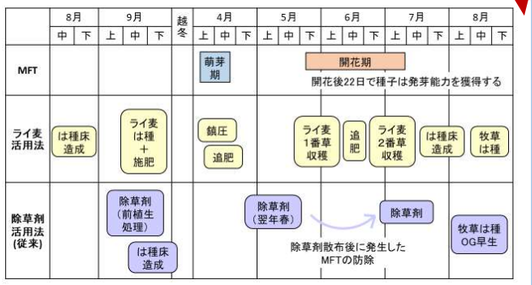


図1 ライ麦を活用した MFT 防除の栽培暦

○結果

取り組みにより、OG（試験区 A：1.6％→85.4％）と TY（試験区 B：2.5％→100％）の割合が増え、植生が改善された。試験区 A は慣行区に比べて生収量で 298%、乾物収量で 201%増加した（図２）。試験区 B では生収量で 394%、乾物収量で 237%増加した。また、良質な牧草を採るため適期に収穫し、栄養価も増加した。

R1～R3 の合計額は支出が収入より多かったが、植生が改善されることで牧草収量（収入）が増え、収支が改善されることを認識した。

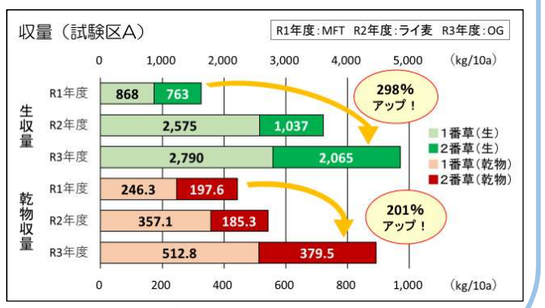
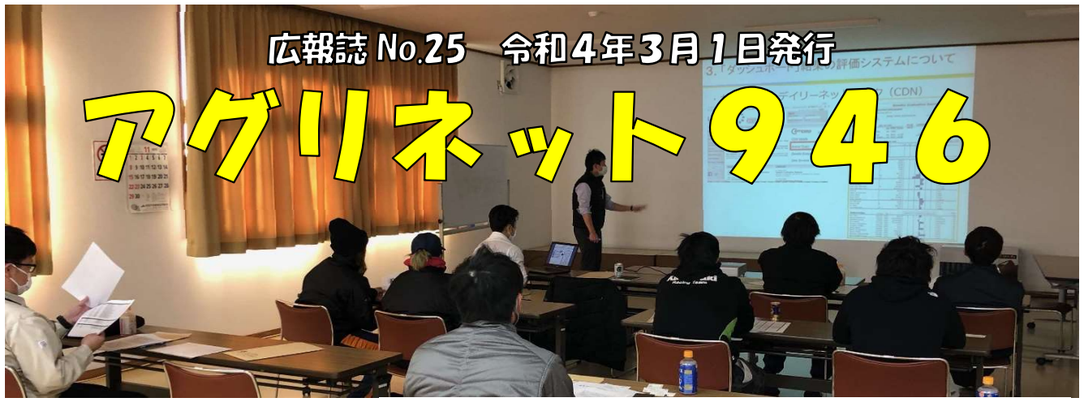


図2 生収量・乾物収量（試験区 A）

令和３年度北海道農業者会議最優秀賞 受賞



ゲノムについての研修会を行いました（R3. 12. 1 白糠町4H クラブ）

会長あいさつ

遅ればせながら明けましておめでとうございます。アグリネット 946 として今年は色々活動できるといいですねって去年も同じこと言ってました。依然として出口の見えない日々が続き、コロナで騒ぎ始めてからもうすでに ２ 年が過ぎました。我々の活動も大きな影響を受け、昨年のアグリミーティングも ２ 年連続の開催見合わせとなりました。その中でも一部のクラブの活動をミニプロジェクトという形で今回の広報誌に載せたいと思います。また１月 26 日にオンラインで行われた全道青年農業者会議の報告も併せて記載しています。

以前あるテレビ番組で人文学者の先生が「人間は“意味”を必要とする生き物」だと仰っていました。だから”意味がないこと”はやりたくないし、“意味がわからないこと”を忌み嫌ったり、恐怖を感じるんだそうです。

現在、コロナの感染者数は連日過去最多となっていて、釧路管内においては更に深刻となっています。この先どのような未来が待ち受けているか“わからないこと”だらけで、この農業業界においては、暗い話ばかりが先行しています。しかし、いつまでも怖い怖いばっかり言っているわけにはいきません。必要なのは、この時代に ADAPT（適応）し、そこから APPLY（応用）していくことです。しばらくは、アグリネット 946 としての活動は限定的なものにはなってしまいますが、その中でも ADAPT と APPLY していくような一年にしたいと思っています。

（鶴居村農友会 明歩谷 優佑）

北海道青年農業者会議

令和４年１月２６日に令和３年度北海道青年農業者会議が開催されました！

＜審査結果＞

○アグリメッセージ

最 優 秀 賞 初山別に改革を！ ～夢をかなえるために～ 留萌 秋山 直人さん
ドリーム賞 「私の農業人生、第二章の始まり」 石狩 竹内 美穂さん
アピール賞 挫折の先に見えたもの ～夢に向かって歩み続ける～ 宗谷 若林 大地さん

○プロジェクト発表（最優秀賞）

園芸特産部門 トマトの肥培管理の見える化 日高 中村 康太郎さん 平取町 4H クラブ
土地利用部門 春よ恋に恋してる ～は種量・追肥による収量への影響～
上川 河村 将寿さん 大雪山麓倶楽部
畜産経営部門 河川敷草地の植生改善に取り組みました！～ライ麦は種による MFT 防除～
十勝 長島 正典さん ヤングファーマーズ講座
地域活動部門 僕たちが経営者になる話をしよう
十勝 香西 瑠理子さん 士幌町畑作農業青年ゼミナール

アグリミーティングが中止となりましたので、広報誌でミニプロジェクトの取り組みを紹介します

『採食量 up を目指して』　（酪匠 HBC）

○取り組みの内容

放牧地の採食量 up を目指してペレニアルライグラス（PR）追播を行った。より良い播種時期を見極めるため、ＰＲの追播を４月と７月に分けて行った（表１）。

また、採草地の植生改善のため、ギシギシ防除の効果確認を行った（表２）。

○結果

PR 追播では、春播種（4月）、夏播種（７月）に大きな違いはみられなかった（表３）。

ギシギシ防除では、11 月に枯死を確認した（写真１）。

○考察と今後の計画

昨年、追播したＰＲの定着・経過を確認する。

ギシギシ防除については、次年度、春の植生を調査し防除効果を確認する（表４）。

表1　ペレニアルライグラスの追播概要

品種	フレンド（雪印種苗）
播種方式	作溝法　シードマチック（雪印種苗）
播種量	20 kg/ha

表2　ギシギシ防除概要

薬剤	ハーモニー75DF水和剤
散布日	9月27日
散布量	3 mg/10a

写真１　ペレニアルライグラス追播とギシギシの枯死

表3　播種時期によるPR追播効果

（単位：%）

調査日	播種時期	植生割合				
		ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽ	ﾍﾟﾚﾆｱﾙﾗｲｸﾞﾗｽ	ｵｰﾁｬｰﾄﾞｸﾞﾗｽ	ｼﾛｸﾛｰﾊﾞ	裸地
10月28日	7月19日	75	5	10	10	0
	4月27日	85	+	10	5	0

表4　ハーモニー75DF水和材散布による植生割合

（単位：%）

	調査日	植生割合					
		チモシー	オーチャードグラス	シロクローバ	シバムギ	リードカナリーグラス	ギシギシ
散布前	11月8日	10	50	5	20	5	10
散布後		2022春　調査予定					

『砂ベットへの牛床改善による安楽性の向上』（標茶町　大宮牧場）

○取り組みの内容

砂ベットの安楽性と菌の繁殖抑制をねらい、令和２年８月にマットから砂に牛床の改修を行った。その効果を横臥率、乳量および体細胞数、NOSAI 診療頭数の面から検証した。

砂ベットで横臥する搾乳牛

○結果

図１のように、平均横臥率、平均横臥時間ともに向上し、起立回数は増加（2.75 回⇒4.25 回）と寝起きのしやすさにも効果があった。

生産性では、気温の高い７月で、バルクの旬報の体細胞数は昨年度と比較し低く推移し、乳房炎の NOSAI 診療頭数は６頭から３頭に減少した。また、乳量は計画乳量より８%増加した。

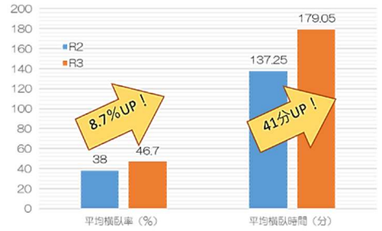


図１　改善前と改善後の平均横臥率と平均横臥時間

○大宮さんのコメント

「砂は洗い砂※で、麦稈やオガ粉よりコストは安い。搾乳が終わるとすぐに横臥する。乳房炎の治療も少なくなって体も楽。」

※詳しくは普及センターまで

『ドローンを活用したほ場管理』　（鶴居村農友会）

○取り組みの内容

鶴居村は広大な土地を利用した自給飼料生産を行っております。そのため、牧草地では面積が大きいほ場や農場からかなり離れているほ場があり、管理が行き届かないのが現状です。また、飼料用とうもろこし畑では除草剤の散布ムラや鳥獣による食害状況の確認をするにも、クマと遭遇する危険性があるため困難となっております。

そこで、農友会ではドローンを活用したほ場管理に取り組む事としました。今年８月にドローンでの飼料用とうもろこし畑の撮影デモンストレーションを実施しております。

来年からはドローンの活用方法について検討していきます。

操作は慣れると簡単…

散布ムラなどほ場状況が**安全に**確認できる！

乳検データを用いた現状分析　白糠町４H クラブ

○取り組みの内容

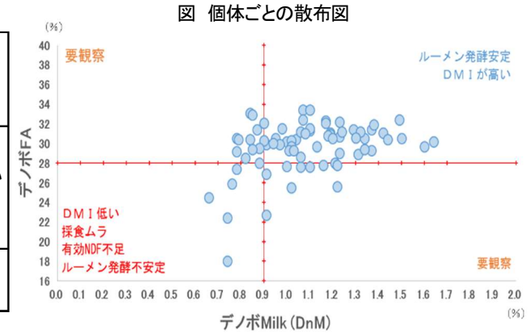
白糠町４H クラブは、乳検に加入しているクラブ員４名の乳検データを用いて、各農場の現状分析を行いました。令和３年４月に乳検データに新たに追加された、デノボ脂肪酸の項目を重点的に比較しました。デノボ脂肪酸は、乳腺で生成される脂肪酸であり、ルーメン微生物が作る酢酸や酪酸を供給源に作られます。ルーメン微生物の活発性を判断できるため、現状の飼養管理の把握・改善に繋がると考えました。

○取り組み結果

表　農場ごとの分析結果

A農場	牛群平均のデノボ脂肪酸の値を見ると大きな問題がなく感じたが、個体ごとの散布図を見ると、バラツキが大きいことがわかった。
B農場	直近のデノボ脂肪酸の値は正常であり、散布図もバラツキは見られなかった。しかし、9月にデノボ脂肪酸の値が低い牛が多く見られた。これは、夏バテが影響しデノボの値が低いのではないかと考えられた。
C・D農場	デノボ脂肪酸の値は安定しており、データ上では大きな問題は無いと考えられた。

図　個体ごとの散布図



○今後の計画

今回比較を行った各農場の飼料内容から栄養計算を行い、飼養管理の改善を目指す。